

# 非弁膜症性心房細動に対するカテーテルアブレーション 治療周術期における経口 Xa 阻害薬リバーロキサバンの有効性 及び安全性評価のための登録観察研究

リバーロキサバンについては、アブレーション術後の血栓塞栓症と出血事象の発生率はワルファリンと差がないと報告されているものの、症例数は極僅かであり、また実臨床におけるアブレーション対象患者に比して CHADS2 リスクの高い患者に限られたデータである。しかしながら、これらはいずれも海外のデータであり、日本において日本人用量のリバーロキサバンの有効性と安全性を検討したものは非常に限られている。このような状況に鑑み、大規模にアブレーション治療周術期のリバーロキサバンの用法と有効性・安全性に関する情報を収集し、分析することによって、速やかに安全かつ有用な周術期の用法を割り出すことが課題となっている。

そこで、カテーテルアブレーション治療周術期にリバーロキサバンが使用される症例を前向きに登録し、経過を観察して、本剤の有効性・安全性を評価する。

本研究は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会（臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会）においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。